

# 成果報告書 1 : 海洋教育のデザイン

1. 学校名 千葉県市川市立行徳小学校

2. 活動テーマ名 「行徳・海物語」

3. 実践の概要・ねらい

**第3学年** 「つなぐ未来へ！ ～行徳海苔の魅力を広めよう～」 (全25時間)

地域の特産物である「海苔」について、海苔の作り方・海苔漁に関わる仕事・販売の実情・後継者問題等、様々な視点から学び、自分たちの住む地域と海のつながり、自分の生活と海のつながりについて考える。

**第4学年** 「行徳の『塩』のなぞ ～チャレンジ塩づくり～」 (全14時間)

戦国時代から昭和まで地域で「塩づくり」が盛んであった事実から、「塩」についての歴史やその価値、利用法、生産方法など様々な視点から学び、自分の生活や命と海のつながりについて考える。

**第5学年** 「発見！発信！行徳っ子食堂～おさかな天国、知ってぎょ・食べてぎょ・広めてぎょ～」 (全70時間)

魚嫌いの児童が多いことを課題として捉え、魚の栄養や調理法について調べたり、鮮魚店や漁業従事者など専門家の話を聞いたり、実際に自分たちが調理活動を行い試食したりする中で、自分の食生活と海とのつながり、社会経済と海のつながりについて考える。

**第6学年** 「行徳っ子守り隊 Jr ～家族や仲間を守り隊～」 (45時間)

本校が海拔0.9mに位置することや過去に地域が津波(大潮)によって大きな被害を受けた歴史的な事実から、地震や津波から自分の命を守るために必要な知識や知恵、技能を身に付けるため、様々な視点から地震や津波について調べ、自分や地域の未来と海のつながりについて考える。

4. 実践計画

①各学年のテーマ・概要・活動計画・教科等との関連

**第3学年** 「つなぐ未来へ！ ～行徳海苔の魅力を広めよう～」

【関連する教科・領域】：総合的な学習の時間、社会科

第1次：地域の特産品！行徳海苔を知ろう！

- ①海苔の食べ比べをして、「行徳海苔」の特性をつかむ。
- ②「海苔」の生産場所や作り方について学ぶ。
- ③「行徳海苔」の街頭アンケートを行ったり、生産者に生産・販売の実情をインタビューし



たりする。

- ④「行徳海苔」の課題を見つける。

第2次：おいしい「行徳海苔」の魅力を広めよう！

- ①保護者と一緒に海苔漉き体験を行う。  
②「行徳海苔」の魅力を広めるパンフレットやポスターを作り、全家庭や地域に配付したり、掲示板に貼ったりする。  
③自分たちの生活と海について考え、学習のまとめを行う。

**第4学年** 「行徳の『塩』のなぞ ～チャレンジ塩づくり～」

【関連する教科・領域】：総合的な学習の時間、社会科、理科

第1次：なぜ行徳で塩づくりが盛んだっただろうか？

- ①「塩」の入っただしと、入っていないだしを飲み比べ、塩に興味をもつ。  
②行徳の塩づくりや地域の特長について博物館の方に話を聞き、行徳の「塩」についての課題を見つける。

第2次：わたしたちにとって「塩」ってどんなもの？

- ①地域の方に、行徳の「塩」の歴史について話を聞く。  
②塩の使い道や様々な塩の作り方について調べる。

第3次：塩とわたしたち、海とわたしたち

- ①行徳の「塩」について調べたことや、海と塩、自分たちの生活について考えことを新聞にまとめる。

**第5学年** 「発見！発信！行徳っ子食堂 ～おさかな天国、知ってぎよ・食べてぎよ・広めてぎよ～」

【関連する教科・領域】：総合的な学習の時間、国語科

第1次：知ってぎよ！！ ～自分たちと魚の関わりを知ろう～

- ①魚の好き嫌いについて、児童の実態調査をする。  
②魚を食べる理由や魚料理について、インターネットや本で調べる。

第2次：食べてぎよ！！ ～食べやすい工夫を考えよう～

- ①魚を食べてもらうために、栄養士さんやスーパーの店員さんに話を聞く。  
②魚を食べやすくするための工夫を調べ、オリジナルレシピを作ってみる。

第3次：広めてぎよ！！ ～さかなくんジュニアとして、魚の良さを広めよう～

- ①栄養士とメニューを考え、全校で魚料理を食べてもらう。レシピも配付し、魚の良さについて広める。  
②魚が暮らす「海」と自分たちの生活について考え、学習のまとめを行う。



## 第6学年 「行徳っ子守り隊 Jr ～家族や仲間を守り隊～」

【関連する教科・領域】：総合的な学習の時間、社会科、国語科

### 第1次：過去から学ぶ PLUS 1 「命の守り方を考えよう」

- ①大震災の映像の視聴等、災害の資料を調べ、「自分ならどうするか」というテーマで課題設定をする。
- ③防災課の方の話や「そなエリア」の見学を通して、地域の減災対策や身の守り方について学習する。

### 第2次：命を守る PLUS 1 「家族や仲間を守り隊」

- ①大地震が起きた時の津波の恐ろしさについて知る。
- ②防災活動体験計画を立て、他学年に体験してもらったり、ガイドブックやパンフレットなどにまとめ、家族や他学年に知らせたりするなど、防災・減災意識を高める啓発活動を行う。
- ③海と自分たちの生活について考え、学習のまとめを行う。

## ②実践の評価について

- ・児童の学習活動への取り組みの様子、ワークシートへの記入内容、児童の作成物で、児童に身に付いた力や態度を評価する。

## 5. 今年度の実践

### ①計画からの追加・変更点

- ・特になし。

### ②実践の成果

#### 第3学年

- ・地域の特産物である「海苔」への関心が大いに高まり、海を身近に感じることに繋がった。関心が高まったことから、家庭学習で自主的に海苔について探究する児童の姿が見られるなど、学習意欲の高まりも感じる事ができた。

#### 第4学年

- ・単元の導入に体験を設定し、塩がもつ力を「味覚」を通して感じたことが、児童が主体的に塩に関連する情報を集めるきっかけとなり、活動の意欲が高まった。
- ・児童の祖父母、曾祖父母の世代で塩問屋を営んでいた方がいたなど、昔の塩作りの情報を伝承できる人材を見つけることができた

#### 第5学年

- ・調べ学習や体験的な学習を通じ、魚を食べる必要性を感じる事ができ、給食では魚を残す児童が一人もいなくなった。
- ・社会科の学習から水産業の問題点を知り、それを改善するために自分たちが取り組めることを主体的に考え、取り組むことができた。

### 第6学年

- ・「東京大学海洋アライアンス」の出前授業を受けたことで、津波の怖さとメカニズムがよくわかった。この授業がきっかけとなり、「津波から身を守る方法」について深く考えることもできた。また、他教科との関連として、社会科の「震災復興の願いを実現する政治」の単元では、地震や津波による被害について学んでいたことで、復興に向けた取り組みについて、具体的に支援方法などを考えることができた。また、自分や地域の未来と海のつながりについて考えることができた。

## ③次年度への課題

### 第3学年

- ・本年度が初めての取り組みとなる単元だったため、学年内での共通理解が十分にできていない部分もあったため、継続していく上で、もう一度活動計画をしっかりと見直し、共通理解を図っていきたい。

### 第4学年

- ・生活の中で海を直接感じられる環境ではないことから、海を「直接」感じられるような体験を取り入れると、より学習が深まると思われる。
- ・学習内容を深めていくには、時数が不足していた。来年度は、1年間を通した単元計にし、体験活動（出前授業やフィールドワーク）を充実させる必要がある。

### 第5学年

- ・学校では生魚を取り扱うことができず、調理方法や試食などに制限があったため、検討が必要である。

### 第6学年

- ・今年度、沿岸防災について海洋教育を進めていく中で、海と直接触れ合う体験がなかった。自分たちが住む行徳地域の沿岸がどのようになっているのかを知るためにも直接訪れ、見る機会を設けることが課題として挙げられる。また、津波は実際に体験するわけにはいかないものなので、体験的な学習をすることが難しかった。

## 6. 主な連携機関及び内容

### 第3学年

- ①市川市役所地域整備課
  - ②市川市魚食文化フォーラム実行委員会
- ⇒①②ともに、海苔漉き体験実施のため、協力いただいた。

### 第4学年

- ①仏性山（ぶっしょうざん） 法善寺
- ⇒境内の見学。「塩場寺」として知られた寺。

#### 第5学年

①一般財団法人 水産物市場改善協会：魚（真あじ）の提供

⇒日本おさかなマイスター教会：おさかなマイスターによる「魚には骨がある」授業実施

#### 第6学年

①東京大学大学院工学系研究科 佐藤 慎司 教授

⇒講話「沿岸防災について」

②市川市地域防災課 「

⇒講話「市川市の減災について」

# 3年生「つなぐれ未来へ！～行徳海苔の魅力を広めよう～」

## 【実践のねらい】

地域の特産品である「行徳海苔」について、自分の舌で味わったり、海苔作りに携わる人々に話を聞いたりするなどの体験的な活動を通し、海苔の生産地や作り方、抱える課題など、地域の産業について理解を深め、見出した課題の解決に向け、必要な情報を収集したり、情報を課題に沿って整理・分析したり、目的に応じて表現したりする力を身に付けるとともに、願いの実現に向け、他者と協働的に取り組む態度や、自分たちの住む町の良さを継承していこうという態度を養う。

○時数 12月～3月 25時間(総合的な学習の時間 25時間)

○関連 社会科

○目標

(1)「海を知る」:自分たちの住む町で「海苔」が採れることや海苔づくりの工場があることを知り、海を身近に感じることができる。

(2)「海を利用する」:海苔漁師の仕事や海苔の生産に関わる課題について知ると共に、未来を想像して、課題解決の方法を考えることができる。

(3)「海と共に生きる」:「行徳海苔」の魅力を広めるため、発信活動を行い、よりよい未来の創造に向けて意欲をもつことができる。

## 【主な連携機関と内容】

市川市役所地域整備課

市川市魚食文化フォーラム実行委員会

⇒海苔漉き体験

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	<div data-bbox="1288 662 1675 906" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 地域の特産品！行徳海苔を知ろう！①行徳産の「海苔」について知ろう(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産地 ・生産方法 ・加工の仕方</li> <li>・他地域産の海苔との味の比較</li> </ul> </div> <div data-bbox="1400 922 1787 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2. おいしいおいしい行徳海苔の魅力を広めよう！</p> <p>①「おいしさの秘密」を調べよう(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元漁師の方にインタビューをする</li> <li>・図書資料やインターネットで調べる</li> </ul> <p>②「行徳海苔」の認知度を調べよう(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学区内での「行徳海苔」の認知度を調べるためアンケート活動を行う。</li> </ul> <p>③「行徳海苔」の危機について知ろう(2)</p> </div>											
探究的な活動												
表現活動												

## 4年生「行徳の塩のなぞ ～チャレンジ塩作り～」

### 【実践のねらい】

身近な調味料である「塩」を中心に、自分たちの地域、生活との関わりを追究する活動を通して、循環型社会における水環境保全の在り方について自分なりの意見を持ち、海がもたらす様々な恵みや地域の歴史とのつながりについて考えさせる。「塩」の力について強く興味・関心を抱くように、味覚で感じる活動、昔ながらの製塩を体験する活動を取り入れる。自分たちの生きる地域の歴史と伝統を深く見つけ、塩の奥深さ、海の大切さを話し合い、発信する活動を通して、主体的に学び、実践する力を育てる。

○時数 12月～2月 25時間(総合的な学習の時間 15時間、理科 5時間 社会科 5時間)

○関連 理科・社会科

○目標

塩の様々な使い道や行徳に「塩」がつく地名が多いことを知ることで、塩について興味・関心を持つ。その中でうまれた疑問を追究する中で、自分の生活の中にある塩の活用法や行徳の製塩業の歴史を見直し、海の環境を守る大切さやその良さを人に伝えようとする態度を育てる。

### 【主な連携機関と内容】

仏性山(ぶっしょうざん) 法善寺  
境内の見学。「塩場寺」として知られた寺。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動										①児童の塩作りに対する実態調査(2)とだしの試飲(1) ・なぜ行徳で塩づくりが盛んに行われたのか、社会科の学習と関連付けて考える。 ・食塩の有無で味が変わると気づく。		
探究的な活動										②塩について知る(7) ・地域での「行徳塩」の認知度調査をする。 ・塩の使い道や作り方を調べる。		
表現活動										③塩の良さをまとめよう(4) ・人間の体に不可欠な成分で		

# 5年生「発見！発信！行徳っ子食堂 ～おさかな天国、知ってぎょ・食べてぎょ・広めてぎょ～」

## 【実践のねらい】

身近で水あげされる魚を中心に、自分たちの食生活との関わりを追究する活動を通して、地域の食材を生かした食の在り方について自分なりの意見を持ち、食べ物や食べ方など食の大切さについて考えさせる。水あげされる魚について考えを深めることができるように、市場調査などの体験活動を取り入れる。自分たちの生きる地域の食材を深く見つけ、食の大切さを話し合い、発信する活動を通して、自分の食生活と海とのつながり、社会経済と海とのつながりについて考える。

○時数 4月～3月 77時間(総合的な学習の時間 70時間、国語科 7時間)

○関連 国語科

○目標

千葉県で捕れる魚や、水産業に関わる人たちの工夫や努力を知ること、魚について興味・関心を持つ。その中でうまれた疑問を追究する中で、自分の食生活の中にある魚料理や調理法を見直し、魚を食べる大切さやその良さを人に伝えようとする態度を育て、食生活と海とのつながり、社会経済と海とのつながりについて考えることができる。

## 【主な連携機関と内容】

一般財団法人水産物市場改善協会：魚(真あじ)の提供

日本おさかなマイスター協会：ゲストティーチャーによる「魚には骨がある」特別授業実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	1、魚のことを知る(自分たちの生活にかかわりの深い魚)			2、魚を食べてみる(食べやすい工夫を考える)			3、魚を食べる良さを広める(根拠や理由、調べたことを基にして)					
探究的な活動	①児童の魚に対する実態調査(3) ・魚の何が苦手かを知ることによって食べやすい工夫を考える ・なぜ魚を食べる必要性があるのか、社会科の学習と関連付けて考える。			①食べてもらう工夫を知ろう(8) ・イオンの鮮魚売り場担当者から話を聞いたり、魚の加工品を食べたりすることで魚を食べてもらうための企業の工夫について知る。			①オリジナル魚弁当を作ろう(10) ・加工品レシピを集めて、魚弁当を作る。 ・三大苦手を取り除き、誰でも食べやすい弁当にする。					
表現活動	②魚について知る(10) ・魚の栄養素を調べる。 ・漁業の実態を知る。 ・魚料理を調べる。			②自分たちで作ってみる(10) ・魚の加工品を使い、オリジナルレシピを作る。 ・三大苦手(骨、味、匂い)を克服できるような工夫を考える。			②魚の良さをいろいろな人に伝えよう(10) ・学年発表会を行う。 ・他学年や地域、保護者に向けより良い伝え方を選び、魚について知ったことを広める。					
	③魚の良さをまとめよう(7) ・栄養面や価格面からも食べやすいことを知ってもらう ・苦手を克服するためのレシピを紹介			③給食での魚についても知り、みんなに広めよう(5) ・栄養教諭の思いや千葉県産の魚を多く使っていることを知り、給食から魚をもっと食べてもらえるように発信する。(放送や新聞)			③学習の振り返りを行う(7) ・今回学んだことを生活に取り入れたり、学習前と比べて変わったところ					



# 6年生「 行徳っ子守り隊 Jr. ～家族や仲間を守り隊～」

## 【実践のねらい】

我が国は世界の地震の約1割が起こる地震大国である。さらに、本校は、海拔0.9mに位置することや過去に地域が津波(大潮)によって大きな被害を受けた歴史的事実がある。地震や津波から自分の命を守るために必要な知識や知恵、技能を身に付けるため、様々な視点から地震や津波について調べ、自分や地域の未来と海のつながりについて考える。体験活動や出前授業などを取り入れ、主体的に学び、実践する力を育てる。

## 【主な連携機関と内容】

- ・市川市地域防災課:出前授業
- ・そなエリア体験:施設見学・体験
- ・東京大学 佐藤慎二教授:出前授業

時数 7月～12月 59時間(総合的な学習の時間 45時間、社会科7時間、国語科7時間)

○関連 社会科、国語科

○目標

- (1)災害について興味を持ち、自分の命は自分で守るという意識を持つことができる。
- (2)学校、家庭、地域内で、地震が起こった場合、どのような行動をとるべきかを理解できる。
- (3)津波の恐ろしさやメカニズムを知るとともに、どうやって防ごうとしているのかを理解し、自分や地域の未来と海のつながりについて考えることができる。

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
体験的な活動	社会科 災害復興の願いを実現する政治 ・実際に災害が起きた時、国や県、市がどのように支援活動を行っている	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>過去から学ぶ PLUS1</b> <b>「命の守り方を考えよう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災の映像から、感想を出し合い、課題を設定し調べる。【課題設定】</li> <li>↓</li> <li>・家庭・学校・地域の災害対策について調査する。</li> <li>↓</li> <li>・これまでの学習をふまえ、自分たちの課題を設定し、調べる。【探究】</li> <li>↓</li> <li>・地域防災課の方に話を聞き、地域の防災対策について知る。施設見学(そなエリア)を行い、災害についてや身の守り方について学ぶ。【体験】</li> <li>↓</li> <li>・調べたことをまとめ、1回目の発表を行う。【表現】</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>命を守る PLUS1</b> <b>「家族や仲間を守り隊！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大地震が起きた時の津波の危険を考える。</li> <li>・東京大学佐藤慎二教授より「沿岸防災」について出前授業を受ける。(津波のメカニズム、被害、防ぎ方、歴史等)</li> <li>↓</li> <li>・地震や津波について、もっと知りたいことや知らせたいことを選んで、調べる。【探究】</li> <li>↓</li> <li>・防災体験活動を行う。(救助法やケガの対処法、寝床作り、防災食、耐震対策、非常用袋を使って、伝言ダイヤル)【体験】</li> <li>↓</li> <li>・津波の危険性やメカニズム・避難方法についてプレゼンテーションソフトにまとめ、他学年に広める。</li> <li>・自分達が調べたことをまとめ、クラスでパンフレットを作成する。【表現】</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p>国語科 意見文を書こう ・調べたことから事柄を整理し、家族に向けて自分の考えを明確に表した文章を書く。</p> </div> </div>										
												探究的な活動
												表現活動